

# HEALTH CARE

# おかしん

2017年5月 vol.13



左上：小林記念病院 右上：老人保健施設ひまわり 左下：碧南市養護老人ホーム 右下：特別養護老人ホームひまわり

## 岡崎信用金庫の医療介護業界への取り組みについて

### 地域密着型金融の推進

おかしんは「地元産業の発展と社会の繁栄に真心をもって奉仕する」ことを基本方針として、地域の医療機関や介護事業所に対して、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

問い合わせ窓口 岡崎信用金庫 営業店支援部成長産業支援グループ 医療・福祉専担デスク

tel : 0564-25-7115 mail : ifsg@okashin.co.jp

この情報誌は、愛知県内において岡崎信用金庫が配布・問い合わせ先です。ご質問等ございましたらメールで承ります。また本誌は筆者の分析に基づく独自の見解を表明しているもので、その正確性・完全性を保証するものではありません。

フィロソフィ導入後も進化し続ける組織とは

## 医療法人愛生館 愛生館コバヤシヘルスケアシステム 理事長 小林 武彦氏に聞く



従業員の大量退職による経営危機に直面し、病院経営にフィロソフィを導入することで起死回生した小林記念病院。小林武彦理事長に10年を経てもなお進化し続ける秘訣と地域の課題についてうかがった。

ベッドは病院のものではなく  
地域に活かすべき社会資源

1945年の開設以来、碧南市で70年余の歴史を刻んできた小林記念病院。名鉄三河線新川町駅前の本館・南館・新館からなる5階建ての病院（17診療科・196床）を拠点に、医療部門としては糖尿病センター、透析センター、総合リハビリセンター、健診センター等、在宅部門としてはデイケアセンター、訪問看護ステーション・ヘルパーステーション等を展開する。また病院から南東4kmの鷲塚地区には関連施設の老人保健施設（100床）、特別養護老人ホーム（80床）、小規模多機能ホーム等を集約した「ひまわり村」を形成する。

同法人では16年12月、病棟再編に取り組み、「慢性期リハビリテーション病棟」（57床・診療区分は医療療養病床）を新設した。急性期対応の「一般病棟」（37床）、回復期医療の「地域連携包括ケア病棟」（42床）と「回復期リハビリテーション病棟」（60床）に加え、最長6か月の医療・リハビリ提供が可能な「終末期ケア」も見据えた新病棟が加わったことで、4つの病床ラインナップが完成した。

一方で、1年前、地域のケアマネジャーのSOS受付ホットライン『よろず相談窓口』を開設し、看取りや難病、夜間人工呼吸器の必要な人など、自宅や関連施設では対応しきれない医療依存度の高い患者のレスパイト入院にも力を尽くす。現場の声を吸い上げる形で生まれたこの取り組みの手応えは大きい。小林武彦理事長は、「ベッドは病院のものではなく、地域の人が安心して暮らすための社会資源。強烈なリーダーシップを発揮するトップと同じ方向を目指す従業員がいる当院だからこそ実現できること」と明快だ。

全従業員が経営に参画する  
独自の経営哲学が浸透

このように、独自の柔軟な手法で進化し続ける小林記念病院のベースにあるのが、小林理事長が06年に作成した法人の行動規範「愛生館フィロソフィ」である。冒頭には法人の使命「人々の人生をより豊かにします」と法人の理念「全従業員の物心両面の幸福（しあわせ）を求めると同時に、質の高い医療と手厚いサービスを通して人々の人生をより豊かにします」を掲げる。「この愛生館フィロソフィは全従業員に1冊ずつ手渡され、作成から10年経った

現在も、各部署の毎日の朝礼で暗唱されています。日々暗唱することで言葉がより深く浸透し、実際の行動に表れてくるようです」と小林理事長は言う。これに合わせ、経営計画書「ベクトル」も年1回更新ごとに配布され、前年の売り上げや利益、借入金額に至るまでが全従業員に公開される。「全従業員が経営に参画する意識をもつことで、一つひとつの業務に責任をもち、自信をもって前向きにあたることができる」と小林理事長はその効果を挙げている。「トヨタの関連企業がひしめく当地域では、経済的な待遇では到底かなわない。そんな中、従業員の当たり前の生活を保障した上で、医療人の感性でいかに心をひとつの方向にまとめるかが鍵」とも。

そして今後、2018年3月には隣接する安城市南部に2棟目の特別養護老人ホームひまわり福釜（100床）がオープンする予定で、法人としては展開エリアを広げながら、地域における医療と介護のさらなる連携体制の構築へと向かっていく。